

シャープだけが語れる真実がある…

オンリーワンストーリー

29

この世の中には様々な製品やサービスが存在し、人々の暮らしや新しい生活文化の創造に役立っています。いまでは当たり前になっているそれらのものの中に、実は「シャープ発」がたくさんあるのをご存知でしょうか。



私たちシャープは創業以来、ベルトのバックルやシャープペンシルをはじめ、世界初、業界初の独創的な商品を数多く生み出し、新しい生活スタイルを創造してきました。このコーナーでは、思わず誰かに話したくなる、そんなオンリーワンストーリーの数々を順次紹介していきます。

シャープ特選工業

日本の障がい者雇用の草分け

創業者 早川徳次の言葉 「なぜ私が福祉事業のお手伝いをはじめたかという、実は私のささやかな恩返しのお気持ちからなのである。私は九歳のときに奉公に出たが、その時奉公先に連れていってくれたのは、近所に住む盲目のおばあさんであった。今日あるのは、このおばあさんのおかげといつてよいのである。(中略)ところが、関東大震災でおばあさんは行方知れずになってしまい、恩を返すといつてももう世におられない。そこで、盲目の方々にお返ししようと考えついたのである。」

この創業者の思いもあって、1944年に、失明軍人^{※1}の職業訓練を図る、障がい者福祉のための工場「早川分工場」ができました(現在のシャープ特選工業)。設立当初、目の不自由な人たちがプレス機械を操作したり、部品を作ることは、けがも絶えず、決して容易ではありませんでした。しかしながら、ゆっくりではあっても徐々に技術を身につけ、着実に成果をあげていったのです。

不況の嵐が吹く1950年に、「合資会社特選金属工場」として本社より独立。8名の内、7人までもが視覚障がい者という陣容で、自主運営、独立採算の工場がスタートしました。努力の甲斐もあって、次第に事業も拡大し、肢体不自由などの障がい者に加え、健常者も加わり、障がい者雇用のモデル工場として、発展していきます。

戦後10年。日本経済が高度成長に差しかかる頃、障がい者の支援の機運が高まり、1960年には身体障害者雇用促進法が施行。さらに1976年、この法律が改正され、企業に障がい者雇用が義務化されたことを受け、翌1977年、合資会社早川特選金属工場は、日本で最初の「特例子会社^{※2}」の認定を受けました。1982年に現在の「シャープ特選工業株式会社」に名称を変更します。

シャープ特選工業は、早川創業者の「身体障害者は適材適所さえ配慮すれば、決して普通の人の能力と変わりが無い」との信念のもと、障がい者がイキイキと働ける、やりがいのある仕事と職場環境を、提供し続けてきました。同時に、社員のみなさんの創意工夫や努力が育んだ、自助自立の風土が根付いています。軽作業をもつばらとする一般の障がい者雇用とは異なり、シャープの事業発展に伴って必要な、高度な技術を要するハイテク部品や組品を常に事業に取り入れてきました。今ではクリーンルーム内でのDVD用レーザーのチップ加工をはじめ、液晶パネル用バックライトの組立、携帯電話の修理付帯業務、液晶パネルの回路修正など、仕事の幅も一層広がっています。

こうした長年の取り組みは、1981年の内閣総理大臣賞受賞をはじめ、大阪労働基準局賞や労働大臣賞、ランプのともしび大賞など数々の栄誉をいただき、日本の障がい者雇用の先駆けとして高く評価されています。

※1 戦傷で目に障害を受けた軍人

※2 一定の条件を満たせば、親会社の障がい者雇用率に子会社(特例子会社)で働く障がい者数を参入できる制度。現在、大企業は一定の障がい者雇用率(法定雇用率=1.8%)を確保することを義務付けられている。



(上) シャープ特選工業看板
(下) クリーンルームの様子

このページの無断複製・無断転載など二次利用は禁止しております。